

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
はあとf+j小郡南		2026年3月31日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		中高生と小学生でスペースが分けてあり、十分なスペースが保たれている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	1	配置数は適切である。学生のアルバイトも配置している。	基準に沿って人員を配置している。送迎時間が重なるとう薄になることがある。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		車いすの児童にも対応できるトイレが設置されており、快適さを感じる。学習室は個別に仕切りがあり、中高生用の部屋もある。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		毎日清掃をしている。体調不良時の静養スペースもある。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		個室があり、クールダウンができる環境となっている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9		毎月・3か月に一度目標設定の内容を確認している。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	毎年実施、ホームページにて公表している。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		毎日のミーティングで話し合っている。また、グループラインで情報共有をしている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9		法人が順次事業所を指名して、外部評価を受けている。評価結果を職員で共有して改善に努めている。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		月に一回、様々なテーマで定例研修を行っている。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		一人ひとりに合ったプログラムを作成し、対応している。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		子どもの特性発達の段階、保護者のニーズを把握して作成し、変更もしている。	今後も半年に一度以上のモニタリングを行う。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		半年ごとにモニタリングを実施して、年度末に次年度についての保護者面談を実施している。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		計画をもとに支援につなげている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		日々の様子、行動をしっかりと観察し適切な対応をしている。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		ガイドラインに沿って、適切に対応している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		毎日のミーティングで細かく話し合い、意見共有し作成している。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		見直しを定期的に行い、子どもが楽しめるように計画している。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		モニタリングに基づいた支援計画内容もとに支援を実施している。	今後も保護者ニーズに応じて柔軟に対応していきます。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		毎日のミーティングで細かく話し合い、確認をしている。	
21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		毎日のミーティングで前日の反省も含めて話し合い、ふりかえり、確認をして情報共有をしている。		
22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		毎日一人ひとりの記録を残し、起こったことに対してミーティングで議題にあげ話し合っている。		

	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		半年ごとにモニタリングを実施して、子どもの特性発達の段階、保護者のニーズ等を把握して作成・変更している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	9		支援内容に基づき支援を実施している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		可能な限り本人の意思を尊重しながら支援に取り組んでいる。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		児童発達支援管理者以外の担当者も会議に参加することもある。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		法人内に設備されており、適切に対応できるよう連携をとっている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		送迎時に様子を聞いたり、情報共有や相談等も適切に行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9		相談事業所を通して、利用前に申し送りの会議をしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9		相談事業所を通して、会議を行い共有している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9		各関係機関と情報を密に取り合い連携を行う。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	2	定期的にマルシェや祭りを開催し、地域交流や児童が楽しめる内容を実施している。	今後も感染症の様子に応じて、検討・実施していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	3	毎年参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		送迎時やお迎えのときに話をして情報共有をしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	1	卒業後の進路の支援や年金の情報を提供している。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		利用開始時に説明をしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		本人確認をしながら支援を実施している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		児童発達支援管理者による説明を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		相談ごとなど随時面談を実施しており、助言も行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	1	地域参加型のマルシェや秋祭りを開催して、親子やきょうだいで参加をしている。	これからも地域と連携してイベントを開催していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		苦情・相談についての窓口を設置しており、迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9		行事、日々の活動はSNSで配信をしている。また、定期的にお便りを発行している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		契約時に同意書をもらっている。ホームページやお便りの掲載時には、必ず保護者に確認をしている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		手話・筆談、伝わりやすいように話し方を工夫して、意思の疎通を行っている。また、LINEなども活用している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9		地域参加型マルシェや秋祭りを開催して、地域との交流を図っている。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		法人内の定例研修にて実施をしている。お便りやSNSで掲載をしている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		年に3回の訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		てんかん発作の子どもに対しては、保護者と情報共有をしている。また、服薬がある場合は、用紙に記入してもらい対応している。	

非常時等の対応	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	1	契約時にアセスメントシートに記入してもらっている。摂取制限の子どもには、事前に保護者に摂取量を確認している。卵アレルギーの子どもには、家庭からおやつを用意してもらっている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		安全計画をもとに、年間スケジュールで訓練等を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		お便りにて訓練状況などを報告している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		毎月医療安全委員会で他事業所の事案も共有して、審議を行い事故防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		定期的に虐待防止の研修を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9		事前に支援計画書に記入をして保護者に同意を得ている。現在、身体拘束を必要とする該当者はなし。	